

令和3年度 学校関係者評価報告書

評価点

| 自己評価 | | 学校関係者評価 | |
|------|--------------|---------|----------|
| A | 高いレベルで達成できた | A | とても適切である |
| B | 達成できた | B | 概ね適切である |
| C | 一部達成できなかった | C | あまり適切でない |
| D | ほとんど達成できなかった | D | 適切でない |
| | | E | 判定できない |

学校(園)名: 広島大学附属中・高等学校

| 分野 | 重点目標 (評価項目) | 年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性 | 具体的方策 | 成果指標・判断基準 | 自己評価 | | 学校関係者評価 | | 学校関係者評価を 踏まえた改善案 |
|------|----------------|---|--|---|---|----|---|----|---|
| | | | | | 達成状況、改善策 | 評価 | 意見・理由 | 評価 | |
| 学校運営 | 学校運営 | 中期目標【教育研究、教育実習にグローバルな視点を取り入れるとともに、広域にわたる教員研修の拠点校として、広く西日本各地の教育力の向上に貢献する。】 | ①中等教育に係る研究組織体として、研究組織と校務分掌組織との連携性を確認、強化して、研究と運営の連動性を図る。教育ビジョンを意識した、教育活動、研究活動を行う。 ②業務効率化、労働時間適正化を図り、運営体制を構築する。 | ①学校経営上の各事業をPlan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善)サイクルの可視化をもって遂行する。 ②学校運営全般にわたる業務の効率化について検討、業務を精選し、課題共有と解決に努める。 | ①中等教育に係る研究組織体として、研究組織と校務分掌組織との連携を行い、各分掌、学年、教科において具体的行動計画を設定し、実行、評価、改善をすすめた。 ②コロナ禍における課題の共有、解決に向けた取り組みを各部長、学年主任と協議し、運営委員会の機能を強化した学校運営の改革を推進した。 | A | 経営目標の実現へ向けて、前年度の評価を生かした具体的行動計画の立案・評価・改善等PDCAサイクルの可視化に重点を置いた学校運営がよくなされている。 コロナ感染によるクラスターに関心が高い中、状況の発信等、安心感の保障に尽力されている。 | A | 中等教育に係る研究組織体として、研究組織と校務分掌組織との連携性を確認、強化して、研究と運営との連動性を図る。 学校運営全般にわたる業務において、運営委員を中心として課題の共有と解決に向けて取り組み、学校運営の改革を推進する。 |
| | 人事 | 中期目標【教員研修制度を包括的に検証し、必要に応じて改善する。また、西日本各府県等との交流協定の成果を検証し、必要に応じて改善する。】 | ①教員研修プログラムを策定して交流人事や教員研修の機能を高める。教員の職能成長を推進するモデルを包括的に検証し、必要に応じて改善する。 | ①公立学校からの現職教員長期研修受け入れおよび人事交流によって、教員研修を推進する。 | ①広島県教育委員会をはじめ、他県から人事交流により教員を受け入れ、キャリアステージごとの資質能力をもとに研修プログラムを実施した。法定研修以外にも教職員等中央研修をはじめとした学校内外での研修を推進し、ミドルリーダの育成をはかっている。また、1名は大学院で内地研修員として学び、教員としての資質・向上能力を図っている。これに加えて、広島県からの長期派遣研修教員1名を受け入れた。 | A | 学校運営の現状を踏まえて教員研修プログラムの策定と推進を行い、人材育成がなされている。 多様な教育・研究活動が増加する中、教職員の増員が求められる。 教員研修プログラムの開発、成果を広く関係機関と共有し、公教育に携わる教員の資質向上に貢献している。 | A | 教員研修プログラムの策定をすすめる。教員の職能向上のため外部研修への参加を促進し、教員研修の機能強化を図る。 教職員の人事要求については、引き続き、関係各所と連携し調整する。 |
| | 広報 | 中期目標【広域にわたる教員研修の拠点校として、広く西日本各地の教育力の向上に貢献する。】 | ①ホームページやパンフレット等を利用して本校の教育・研究活動の広報を行う。 ②学校広報に努め、入学希望者の増加を図る。 | ①教育実践の成果を教育研究大会の開催、SSH研究開発の成果を事業成果報告会の開催、及び刊物やホームページで公開などを通して広く発信、提供する。 ②学校案内、学校要覧等、学校刊物を公開し、広報資料の充実を図る。 | ①SSHの実践をはじめとして、授業実践事例集を学校Webページで公開し、学校Webサイトへのアクセス数は1年間で延べ20万回を上回っており、学校の取り組みの成果が受け止められている。 ②学校説明会は開催できなかったが、学校生活の様子等を動画にしてホームページで紹介するなど、広報資料を充実させた。 | A | SSH研究開発の成果、および教育実践の成果、刊物を学校Webページに公開し、広報活動が充実している。また、体育祭、文化祭、学校説明会に参加できない保護者にとって、ホームページは唯一の頼みの綱。教育関係者、保護者をはじめ大勢の方が閲覧されていると実感する。 | A | 先進的・先駆的な研究活動を通じて、持続可能な社会づくりの担い手を育てる学校運営、中等教育カリキュラムを策定し、学校Webページを通じて広く発信する。 |
| | PTA等の諸組織との連携 | 中期目標【広域にわたる教員研修の拠点校として、広く西日本各地の教育力の向上に貢献する。】 | ①PTAと緊密に連携し、教育環境の充実を図る。 ②教育後援会との連携により教育環境の改善を図る。 | ①PTAやPTA連合会行事に協力し、保護者と教員の研修を深める。 ②教育後援会役員会に出席して教育環境の充実に関する協議と予算執行を進める。 | ①全国国立大学附属学園PTA連合会研修会は、全保護者への視聴案内を行い、今日的な教育課題について多くの保護者、教員がオンラインによる研修を行った。 ②教育後援会と連携して、コロナ禍で特に必要となったものについて慎重な協議のもとで予算執行し、教育環境の改善に努めている。 | A | 全国のPTA研修会にオンライン参加することで、全保護者へ研修の機会が得られた。 教育後援会との連携が充実しており、学校運営、環境整備をスムーズにしている。 | A | コロナ禍ではあるが、オンラインを用いた工夫により、PTAと学校との連携を一層強化して、保護者と教員との研修を深める。 教育後援会との協議を定期的に行い、教育環境の改善・充実を図ることができるよう支援を受ける。 |
| 教育活動 | 学習指導 | 中期計画【グローバル人材に求められる資質・能力を育成する指導方法及びグループワークを用いた評価方法を完成させ、その成果を広く公表する。】 | ①学習活動を充実させ、目標の達成度を適切に評価し、学習指導研究などを展開する。 ②グローバル化に対応した教育推進を通して学力向上を図り、資質育成と進路実現を支援する。 | ①教科指導を充実させ、課外指導も実施して学力を向上させる。 ②大学や地域、アカシア会の協力を得て、現場体験学習やキャリア講座を充実させる。 | ①希望する進路の実現に向けて学習指導を充実させ、生徒・保護者から高い評価を得ている。また、高校3年生の生徒が広島県科学賞特選、日本学生科学賞入選1等の受賞をはじめ全国コンテストで顕著な成果を収めるなど、多くの生徒がSSH課題研究で優れた評価を得ている。 ②アカシア会の絶大な協力によりキャリア講座を実施し、生徒のキャリア意識を向上させた。 | A | 生徒一人ひとりを大切にされた教育実践がなされていることがわかる。学習指導、進路指導の充実について、生徒・保護者から高い評価を得ていることはもちろんであるが、特に「先生が生徒の相対・悩みを親身になって応じてくれる」と感じている生徒・保護者の割合が年々高くなっていることが何よりの証である。一人ひとりに寄り添った進路指導とそこで築かれた信頼関係の上で安心して受験に挑めたのではない。また、キャリア講座で、授業では得られない知識を得ている。 | A | コロナ禍においてさらに教育方法の多様化が求められているが、全人教育の実現を図るとともに、学習目標の達成度を適切に評価し、その分析を通じた学習指導研究、カリキュラム開発研究、評価方法研究を展開する。 10年後の学習指導要領改訂を先取りする教育研究を積み上げるための方向性を、各教科ならびに探究学習等の通教科的な方面から検討する。 国際標準の学力を育成するための先進的な次世代カリキュラムの開発をすすめる。 |
| | 生徒指導 | 中期目標【広域にわたる教員研修の拠点校として、広く西日本各地の教育力の向上に貢献する。】 | ①自由・自主・自律を校風として生徒の自覚を高め、生徒会活動の充実を図る。 ②生徒会活動、生徒指導を通じて、社会的ルール遵守や規範意識を促す。 | ①生徒が主体的に活動する学校行事・生徒会行事を支援する。 ②生徒会組織を活用し、外部機関にも協力を求めて生活指導を推進する。 | ①緊急事態宣言により体育祭は2度延期、中高を別開催とし、文化祭は中止とせざるを得なかった。これまでの準備が通しない中、新しいスタイルを工夫して生徒主体の企画運営を支援した。 ②SNSに関する講話を通して、社会的規範意識を向上させた。また、教職員自身もSNSにおける法的トラブル予防のための研修会へ参加し、法的専門知識を得るよう努めた。 | A | 体育祭の延期、文化祭の中止という例を見ない事態の中で生徒の活動への対応、教職員が一体となって乗り越えたことを評価する。また、前例を踏襲できないがために、生徒の計画実行力を確認するにもつながった。 SNSに関する新たな課題、実態に即した指導に対応するよう努めている。 | A | 自由・自主・自律の精神についての自覚を高め、生徒会活動の充実を図る。 生徒が有意義な学校生活をおくることができるよう教育環境の整備に努める。生徒会活動、生徒指導を通じて、社会的ルール遵守等の規範意識を促す。 |
| | 保健指導 | 中期目標【広域にわたる教員研修の拠点校として、広く西日本各地の教育力の向上に貢献する。】 | ①心身ともに健康な学校生活の実現を図る。 ②チーム学校として、心身に課題を抱える生徒を支援し、生徒の健全な人間観を育成する。 ③清掃活動を充実させ、校内美化の向上と美化意識の高揚を図る。 | ①保護者、学校医、スクールカウンセラー、専門機関との連携した生徒相談を充実させる。 ②学校全体で支援体制を共有するとともに対応策を講じる。 ③生徒会組織を活用した保健指導、及び主体的な清掃活動、環境美化活動を推進する。 | ①学校医、スクールカウンセラーと教職員との連携を密にとり、生徒相談の充実に取り組んだ。また、9月からSSR(スペシャルサポートルーム)を開設し、生徒相談の充実を図った。 ②校内研修や情報交換の機会を増やし、支援体制の共有と綿密な対応策について検討した。 ③保健委員会の活動等でもコロナ感染症拡大防止の意識づけを行い、生徒が主体的に活動できるよう努めた。 | A | 学校評価アンケートの回収率が95%近くへと大幅に上がり、その評価結果から生徒、保護者の学校への信頼が高くなっていることが伺える。コロナ禍が続き、学校行事、生徒会活動、クラブ活動などが十分にできない「つらさ」を抱えている生徒たちが、かけがえのない学校生活に日々充実感、満足感を持ってよう、引き続き工夫・努力をお願いしたい。 | A | チーム学校として、心身に課題を抱える生徒の学校生活を支援する。スクールカウンセラーとの連携を強化した組織的な対応により、生徒一人ひとりが心身ともに健康な学校生活を送ることが出来るよう生徒相談を充実させる。生徒会活動を通して、コロナ感染症拡大防止の意識づけ、校内美化意識の高揚を図り、生徒が主体的に活動できるよう努める。 |

注) 太枠内は、学校関係者評価委員会が記入する。

令和3年度 学校関係者評価報告書

評価点

| 自己評価 | | 学校関係者評価 | |
|------|--------------|---------|----------|
| A | 高いレベルで達成できた | A | とても適切である |
| B | 達成できた | B | 概ね適切である |
| C | 一部達成できなかった | C | あまり適切でない |
| D | ほとんど達成できなかった | D | 適切でない |
| | | E | 判定できない |

学校(園)名: 広島大学附属中・高等学校

| 分野 | 重点目標(評価項目) | 年度計画(中期計画・中期目標)との関連性 | 具体的方策 | 成果指標・判断基準 | 自己評価 | | 学校関係者評価 | | 学校関係者評価を踏まえた改善策 | |
|--------------|---|--|---|--|---|---|--|--|--|---|
| | | | | | 達成状況, 改善策 | 評価 | 意見・理由 | 評価 | | |
| 教育実習 | 教育実習 | 中期計画【教育実習生に、グローバルマインドを育成する指導法や英語による授業展開の指導方法及びアクティブ・ラーニングなど新たな学びの方法の指導方法を修得させる。また、第4期中期目標期間におけるインターン受け入れのための制度設計を行う。大学院生のインターシップ受入について、成果効果を引き続き検証する。】 | ①教科指導力、授業力を育成するとともに適切に評価し、その分析に基づく実習指導研究を展開し、指導の改善を図る。また、グローバルマインドを育成する指導方法、及び新たな学びの方法を備えた教員を養成するための指導計画を構築する。 ②大学と連携・協力し、教育実習生の課題を大学と附属間で共有する方策を検討する。 | ①教科指導を中心に実習の充実を図り、また先進的・先駆的な教育活動やグローバル化に対応した教育活動を通じて新しい学びの指導方法も習得させ、高い達成感が得られるようにする。 ②教育実習生の成果と課題を検証し、大学との連携・協力の実質化に向けて、具体的方策を提案する。 | A | ①緊急事態宣言中で特別な状況下であったが、教科指導について97%の実習生が「満足」と回答、99%の実習生が「指導力が向上した」と回答するなど高い達成感のある実習が行われた。また、数学と理科では、英語による教材及び指導案の作成を通じて新たな学びの方法の検討を行った。 教職大学院アクションリサーチ実地研究においては、教科指導、生徒指導、学級経営などの指導も行い、優れた教員の輩出に協力した。また、大学院生のインターシップ受入れについて大学と連携し、検討を始めた。 | A | 緊急事態宣言中という環境下での実施の中、附属の教育実習の伝統の底力を感じる。100%近い実習生が、実習に満足し指導力が向上したと実感していることを高く評価したい。生徒の反応はどうだろうか。さらに大学と密に連携して、教員命感を持った教師の養成に努めて欲しい。 グローバルマインドを育成する指導にあたっては、SSHの取り組み、「探究的な学び」と合わせることで、より実力向上が期待できる。 | A | 教育実習生の教科指導力、授業力向上を図るため、大学と協力して教育実習指導の方法や評価方法について教育実習指導研究を展開し、教育実習指導の改善を図る。また、国際標準の学力の育成をめざした教育活動を通じて、新たな学びの方法を備えた教員を養成するための指導計画を構築する。 |
| | | | | | | | | | | |
| 先進的・先駆的な研究推進 | 中等教育研究開発 | 中期目標【広域にわたる教員研修の拠点校として、広く西日本各地の教育力の向上に貢献する。】 | ①次期学習指導要領を先取した各教科ならびに通教科的な教育研究実績を積み上げ、研究開発を推進する。 ②教育研究大会を開催し、全国の教員に実践研究の成果を提供する。 | ①研究主題「『学ぶ』から『探す』へ」中・高6ヵ年の学びの地図(第3年次)(副題)『〇〇』の「探究」とは:各教科からの提言」を設定し、3年間の実践研究を通じて、「学ぶ」と「探す」との関係を整理し、本校独自の「学びの地図」を提案する。 | A | ①研究主題に沿って、中高6カ年の「学びの地図」の作成のためには、各教科の文脈において「探究的な学び」を充実させることが必要であり、各教科から生徒に応じた「探究」の形について提案した。また、全体会では課題研究指導のための「広大メソッド」について提案も行った。コロナ禍のため参加は広島県内限定であったが、90%以上の参加者が、公開授業、研究発表について「参考になった」と回答している。 | A | 各教科ならびに通教科的な視点から「学び」と「探究」のつながりを意図した教育実践に取り組み、その成果を広く発信できている。「学びの地図」の作成、実践について他校に先がけて実績作りを努めている。学校Webページにおいて教育研究大会全体会の動画を公開し、一定の成果をあげている。 | A | 先導的な実験的カリキュラムの導入について検討し、教育研究大会での公開授業や研究発表を通して、10年後の学習指導要領改訂を先取した各教科並びに探究学習等の通教科的な教育研究実績を積み上げ、全国をリードする研究開発を推進する。 |
| | 学部・附属学校共同研究 | 中期目標【広域にわたる教員研修の拠点校として、広く西日本各地の教育力の向上に貢献する。】 | ①大学と共同で研究プロジェクトに参加し、英語での研究成果発信を進める。 | ①研究プロジェクトへの応募を推奨し、大学や附属学校と連携して「先進的な教育研究開発の実践」を推進する。 | A | 本校教員が代表となっているプロジェクトもあり、研究の中心となって共同研究プロジェクトを展開している。研究成果は、大学が発信する電子ジャーナルでの発表および学会での発表を予定している。 | A | 大学、他附属学校間の教員との連携により、先進的な教育研究開発の実践が積極的にすすめられている。共同研究プロジェクトの展開は、他校の推進に大きな期待が寄せられる。 | A | 広島大学、附属学校間との先進的な教育研究開発プロジェクトをすすめて、その成果発表を推進する。 |
| | グローバル教育推進(ユネスコ教育) | 中期計画【グローバル人材に求められる資質・能力を育成する教育課程及びその評価方法について、検証、改善を行い、ルーブリックを用いた評価方法を完成させ、その成果を広く公表する。】 | ①ユネスコ・スクールに係る教育活動を軸に、国内外の機関と連携をして、国際的に活躍する生徒の育成を図る。 ②SSH、SDGsに関わる教育を研究・推進し、持続可能な社会を先導するためのカリキュラム開発を推進する。 | ①生徒のユネスコ活動等を支援し、グローバル・コンピテンシーの育成を推進する。 ②SDGsの視点を踏まえてカリキュラムを開発し、実践する。 | A | ①コロナ禍のため十分な活動はできなかった面はあるが、生徒のユネスコ活動、高校生平和大使の国際的活動を支援して、活動成果のフィードバックによって全校へ普及させた。また、第1回広島SDGsコンソーシアム研修会において、生徒が実践報告を行った。 ②海外連携校との課題研究協働プログラムを主にオンラインによって実施し、生徒の科学的に探究する力やコミュニケーション・プレゼンテーション能力の伸長を図った。 | A | コロナ禍で活動の多くが縮小、取りやめとなる中、8月6日の慰霊追悼の集いを行い、広島で学び育つことの意味を大切に、国際感覚を豊かに持った人材の育成が着実になされている。 また、SDGsコンソーシアム研修会への参加、発表を行い、ユネスコ教育の取り組みは進められ一定の効果を得ていると評価する。 | A | ユネスコスクール、SDGs活動をさらに推進し、本校における教育の思想及び構造を策定し、成果を発信する。 ユネスコ委員会やユネスコ班、個人での活動も引き続き支援し、ユネスコ・スクールとして研究実践を行う。 ESDの推進等の先導的な実験的カリキュラムの導入について検討する。 |
| 国際交流 | 中期計画【グローバル人材に求められる資質・能力を育成する教育課程及びその評価方法について、検証、改善を行い、ルーブリックを用いた評価方法を完成させ、その成果を広く公表する。】 | ①教職員、生徒の海外研修、海外学校との交流事業計画を策定し、チーム学校としてグローバルマインドの高揚を図り、成果を発信する。 | ①グローバル教育を推進し、海外研修プログラムをより改善して実施する。 広島大学、広島県国際課や教育委員会等とともに連携する。 海外からの学校訪問には積極的に応じて交流を図る。 | A | ①新型コロナウイルス感染症拡大の影響で今年度も学校主催海外研修は中止し、SSH事業の海外研修、訪日研修も取り止めた。韓国やタイ王国等のSSH海外連携校との研究交流は、オンラインの形態で交流プログラムを実施することができており、従来のプログラムを継承している。 | A | コロナ禍においてこれまでとは異なった取り組みを余儀なくされ、交流の在り方を模索することになったが、従来のプログラムの継承に加えて、SSH連携校とのオンライン共同授業の実践等、新たな取り組み、交流プログラムを実施できたことは評価できる。大学では国際交流会館が完成し、よりグローバルな発展を目指す中、小中高と大学がともに連携してすすめてほしい。 | A | 国際標準の学力を育成するための先導的な次世代カリキュラムの開発をすすめる。生徒の海外研修、海外との交流事業計画を策定し、状況により改善を図りながら対面とハイブリッドによる海外連携プロジェクトの具体的方策を精査する。 学校主催の海外研修への参加は、感染拡大リスクを考慮し、中止、延期対応を行うなど慎重に判断する。 | |

注) 太枠内は、学校関係者評価委員会が記入する。